



【10月2日、飯田OIDE長姫高校商業科3年生7名が、患者さんに秋のハーモニーをプレゼントしてくれました。】

目次

- 地域包括ケアシステムって? ……2~3
- ねっとわーく
 - 飯田橋木下医院 …………… 4
 - 平谷村国保直営診療所 …………… 5
- 地震総合訓練を行いました ……4~5
- 飯伊緩和ケアセミナーを行いました …6
- ドクターカーを運用しています ……6
- 飯田下伊那地域糖尿病療養指導士育成研修会がはじまりました …7
- 認定看護師の紹介 ……………7
- 宮川信名誉院長 逝去 ……………8
- 職場紹介 ……………8
 - ゆうゆう③2階Aチーム
- 新任医師の紹介 ……………8

飯田市立病院 基本理念

私たちは、地域の皆さんの健康を支え信頼される医療を実践します

飯田市立病院 基本方針

- 1 私たちは、安全・安心で良質な医療を提供します
- 2 私たちは、患者さんの権利と意思を尊重し、患者さんの立場に立った医療を実践します
- 3 私たちは、地域の保健、医療、福祉機関と密接に連携します
- 4 私たちは、教育・研修機能を高め、医療水準の向上と、職員が誇りややりがいの持てる職場づくりを行います
- 5 私たちは、公共性と経済性を考慮し、健全な経営に努めます

飯田市立病院 理念行動指針

私たちは、誠意 熱意 創意をもって医療を実践します



地域包括ケアシステム って？

団塊の世代が75歳以上となる2025年以降は、国民の医療や介護の需要が、さらに増加することが見込まれています。また、国の社会保障制度は少子高齢化により持続が危ぶまれております。

このため、厚生労働省においては、2025年を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービスの提供体制(地域包括ケアシステム)の構築を推進しています。

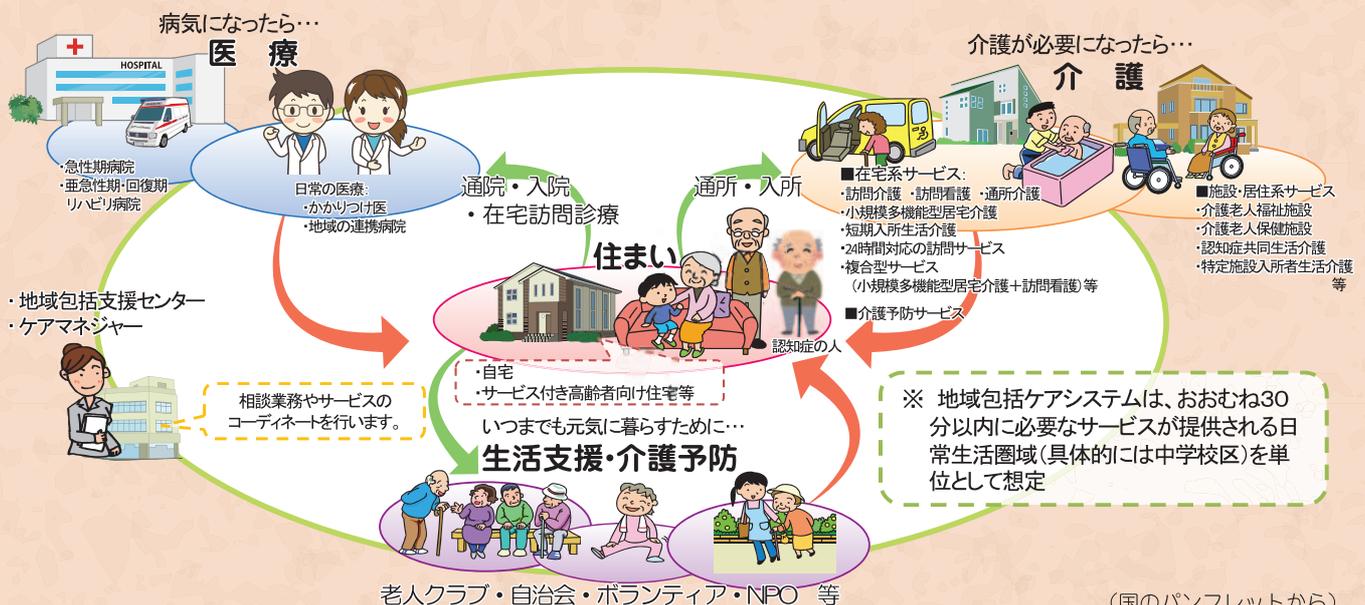
2025年に団塊世代が後期高齢者になるという将来を踏まえ、後期高齢者が増加する中、医療・介護等ニーズ増加への対応として、介護保険制度・医療保険制度の改革が進められました。

後期高齢者の増加は、要介護認定率を引き上げ、認定症高齢者を増加させます。また、人口減少と高齢化及び景気低迷下、税収の伸びが期待しにくい中、社会保障費の抑制等の観点からの、サービスの絞り込みが行われました。退院の促進、軽度者の介護保険本体給付からの除外、施設利用者を中重症者に制限等になります。特に入院や介護老人保健施設利用者を地域に戻すしくみが制度化されつつあります。

飯田医師会は南信州広域連合や飯田市と共同で、「地域包括ケアシステム」構築に向けた基礎知識について全体でグループワークをして、課題をあらいだし解決に向け検討しています。また、南部ブロック研修会、飯田市部と西部ブロック研修会、北部ブロック研修会なども実施しています。



地域包括ケアシステムの姿



(国のパンフレットから)

地域全体で患者さんを診ていく体制づくりを

2次医療圏(飯田下伊那)全体として、必要な医療を、複数の医療機関が連携して提供していく体制をつくっていく必要があります。そして、病院では機能分化や退院促進の取り組みが始まりつつあります。また、サービスの提供の考え方が、「病院完結型」から「地域完結型」に転換する中で、地域で様々なサービスや住民が参加して地域全体でサービスを完結させるしくみづくりを行う必要もあります。

1 病院で完結するのではなく、地域全体で完結することが求められています。

- 例えば、飯田市立病院で手術をして、〇〇病院に転院してリハビリや療養をするというようなケース。
- 定期的な検査は、自宅近くの診療所や病院で、半年に1回とか1年に1回は、飯田市立病院で検査をするというようなケース。
- 例えば「かかりつけ医」で普段の治療をし、手術が必要になったら飯田市立病院を受診する。

現在、病院の機能分化(急性期病院<回復期病院<慢性期病院)により、病床数を抑制し、可能なかぎり在宅医療(訪問診療・看護・介護)へ移行することを国は目指しています。

飯田市立病院としての役割

- 地域医療支援病院として(紹介患者窓口の開設)
- 在宅療養後方支援病院として

飯田市立病院では地域完結型医療の実現のため、かかりつけ医との連携を深め、地域の皆さんが安心して医療を受けていただくための地域づくりを推進しています。

その取り組みの一つに飯田下伊那診療情報連携システム[ism-Link](イズムリンク)があります。

イズムリンクは地域内の医療機関等をインターネット回線で結び、患者さんの同意を得たうえで、複数の医療機関が持つ患者情報を、1台のコンピューター画面上に表示・閲覧することにより、患者さんの安心・安全な医療に役立つ診療情報連携システムです。

サービス開始当時は、病院の医療情報(画像、処方、検査、注射等)を病病・病診連携の一環として閲覧するのみでしたが、現在は、在宅医療現場で活用されています。医療依存度の高い在宅療養患者さんへのケアに関しては、イズムリンクの情報共有機能(ノート機能)を活用することで、これまでにない迅速かつ質の高い在宅ケアが実現されています。今後は、在宅医療現場での活用を拡大し、飯田下伊那全域で在宅医療の充実を目指していきます。

私たちが住み慣れた地域でいつまでも元気に暮らしていくための社会的インフラとして、イズムリンクは益々大きな役割を担っていくこととなります。

*イズムリンク利用者登録には同意書への署名が必要となります。



意識を高めていくために

住み慣れた地域で安心安全な医療を受けていくためにも、限られた医療資源を私たち一人一人が大切に守っていくという意識を改めて持つということが必要なのではないでしょうか。地域のそれぞれの医療機関が持つ役割と機能をよく理解し、症状に応じた適切な医療機関へかかる習慣を身につけましょう。





飯田橋木下医院

(飯田市西郷)



What is your trouble? (どうしましたか)

飯田橋木下医院 院長 木下 通博

昭和49年日大医学部卒業後、山本麻酔学教室に入り、学位と指導医を得たのち、板橋区医師会病院、埼玉中央病院内科に勤務し、特に呼吸器、気管支鏡検査や喘息患者を診る機会が多くありました。当時は重症患者が多く、24時間の点滴で大変でした。その時期、下條村の中島先生と一年間一緒に働いて、とても楽しい時を過ごしました。その後飯田に帰り、59年から内科小児科の診療にあたっております。また直ぐに在宅当番、休日夜間診療をさせられ今に至っております。

当院の診療内容は、一般診療

所同様X線、心電図、内視鏡、肺機能、A.B.I・骨密度、血液検査等を組み合わせながら、加えて痛みの治療(肩こり、腰痛、各種ブロック)を行っています。市立病院の各科の先生の快い対応に感謝しております。3世代のかかりつけ医になりましたが、親切に患者さんと接するよう心がけています。老老介護や在宅が無理な

貧しい家庭の為に国立の療養所が欲しいところです。



木下先生(前列)とスタッフの皆様

所在地 〒395-0026 飯田市西郷615-1

☎0265-21-6151

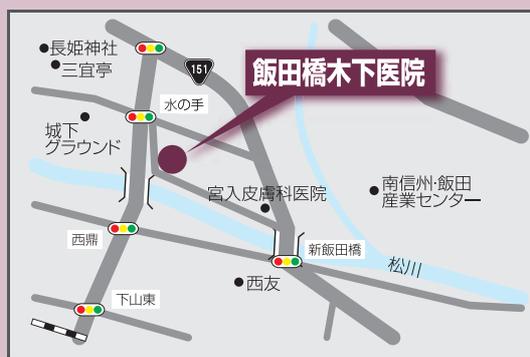
診療科目 内科、小児科、麻酔科

診療時間 9:00~12:00 / 14:00~18:00

休診日 木曜日午後 土曜日午後 日曜日

往診 可

駐車場 あり



地震総合訓練を行いました



市立病院では8月30日、地震総合訓練を行いました。

この訓練は、当院がこの地域の災害拠点病院として必要な災害救急医療体制を整えることなどを目的に行っています。

今回は、より実災害に近い訓練とするため、具体的な想定は非公開とし、時間に沿って付与される設定に対して、各自が適切な対応や判断ができるか検証しました。また、患者の治療においては、実物の器材等が揃わない限り実施できないという条件で行いました。

訓練の重点事項としては、災害対応の基本である「指揮命令系統の確立」

登録医紹介

登録医とは共同診療、検査機器の利用、研修参加などを一緒に行って、より良質な医療を地域の皆様に提供するため、協力いただいている医療機関です。

平谷村国保直営診療所

(平谷村)



地域医療に貢献できる診療所をめざして

平谷村国保直営診療所 院長 佐藤 健

平谷国保直営診療所は現在の場所に平成元年12月に移り、假家先生、阿部先生、飯島先生の3名の常勤の先生たちに続いて、平成8年11月より私にまかされ現在に至ります。

診療日は月、水、木、金曜日の週4日で、診療時間は午後2時30分から午後4時30分まで2時間の診療をしています。

2時間のみの短い診療時間ですので、患者さんたちが遠くの医療機関に通院しなくても済むように、安心して、満足していただけるような診療が出来るように心がけています。

胸部、腹部X-P、骨密度測定、

腹部超音波、心電図の検査を行うことが出来ます。

診療所に来院出来ない患者さんには往診もしています。私は「最後は自宅の畳の上で」という考えを持っており、看取りも積極的にやっています。これからの地域包括ケアシステムに協力していけると思っています。地域医療に少しでも貢献できるようにスタッフ一同努力していきたくと思っています。しかし、診療所には、当然限界があり飯田市立病院の先生方、スタッフのみなさんにはいつもお世話になっております。無理を聞いていただき、ありがとうございます

す。これからも、よろしく願います。



佐藤先生(前列)とスタッフの皆様

所在地 〒395-0601 平谷村1068-3

☎0265-48-2252

診療科目 内科

診療時間 14:30~16:30

休診日 火曜日 土曜日 日曜日

往診 可

駐車場 あり



や「適切な情報伝達と集約」などを掲げて取り組みました。

より現実的な訓練で混乱する場面もありましたが、貴重な経験となり認識を新たにすると共に、課題もより鮮明にすることができました。

今後は反省点をふまえ、マニュアル等の改善を図ると共に、各自の意識や熟度を高め、いざという時に適切な対応ができるよう備えていきます。





飯伊緩和ケアセミナー2015を開催しました

9月12日(土)、13日(日)の2日間にわたり、シルクホテルを会場に「飯伊緩和ケアセミナー2015」を開催し、

医師21名、薬剤師・看護師等の医療従事者9名、計30名が受講されました。研修終了後の修了式では全受講者に主催者の金子源吾院長から修了証書が手渡されました。

当セミナーは、「基本的な緩和ケアを習得する」、「困った時に相談する必要性を理解する」ことを目標に、講義、グループワーキングなどの研修方式で行われました。実質的な研修時間は13時間15分になります。受講前は固い表情の受講者でしたが、アイスブレイキングで和やかな雰囲気となり、真剣な表情でロールプレイングやグループ討議を行い、受講後は多くの方が晴れやかな表情で受講してよかったと感想を述べていらっしゃいました。

平成28年も飯伊緩和ケアセミナーを開催する予定です。多くの医療従事者に、特に医師の皆様には、是非ともこのセミナーを受講していただきたいと強く願っています。



グループで課題に取り組む



受講中



修了式の様子

ドクターカーを運用しています

ドクターカーとは、医師、看護師、救急救命士等で構成された医療チームが消防の要請により出動し、一刻も早く救急現場へ駆けつけ初期診療（病院前救急診療）を行うための医療資機材を積載した救急自動車です。

医療チームが医療機関で傷病者の到着を待つのではなく、救急現場に出動し、救急隊と協力して、より早い段階で救命処置等を実施することにより救命率の向上及び病態悪化の予防が期待されます。

当院では、2014年12月からドクターカーを平日午前8時30分から午後5時までの間で試行運用を開始しており、今年8月末までに66件出動しています。

ドクターカーの出動には「キーワード方式」を用いており、「目の前で心肺停止」「突然の胸痛」「高所からの墜落・転落」などのキーワードを含む通報が119番に入ると、管内の消防救急車に出動命令が出されると同時に、消防指令室からドクターカーの要請が入ります。ほぼ全症例に対し、要請から3分以内に出動しており、救急現場からの医療処置を開始しています。



出動の様子

飯田下伊那地域糖尿病療養指導士育成研修会がはじまりました

平成27年度の飯田下伊那地域糖尿病療養指導士育成研修会の第1回が、去る9月6日(日)に、第2回が、去る10月4日(日)に行われました。飯田下伊那地域糖尿病療養指導士とは、飯田下伊那地域で独自に認定した糖尿病療養指導士のことです。これは、糖尿病療養指導への取り組みを地域単位でさらに活性化し、より地域に密着した療養指導を提供することを目的に始まった取り組みになります。地域ごとに育成会を組織し、独自の認定制度と教育プログラムを設けています。糖尿病という国民的疾患を減少させ、また予防するために、医師だけでなく様々な職種が連携・協力して、治療や予防に取り組んでいます。年間5回の研修会を受講し、その後、認定試験に合格すると、飯田下伊那地域糖尿病療養指導士として飯田下伊那の各施設で糖尿病に関する療養指導を行っています。

平成22年度発足以来、5回の認定試験を実施し、これまでに153名が認定試験に合格しています。

勤務する施設で「血糖コントロールの意義」「食事療法」「運動療法」「薬物療法」「合併症」「生活習慣」について、患者さんやその家族の方へ、より積極的な支援を行うことができます。また、医師の診察と治療だけでは補完されない部分について、様々な療養指導・支援・予防のための情報提供を行います。お気軽にご相談ください。

◆飯田下伊那地域糖尿病療養指導士施設別一覧表

年度	病院	診療所	施設	市役所 (保健師)	薬局	計
22年度	29	4	2	6	4	45
23年度	23	7	1	2	0	33
24年度	26	2	0	0	1	29
25年度	16	2	1	1	0	20
26年度	22	1	0	0	3	26
計	116	16	4	9	8	153



認定看護師の紹介 その7

認定看護師とは、特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護実践のできる看護師のことです。患者さんの療養生活の向上と疾病を抱えながらも在宅でその人らしい生活が送れるために、専門的知識をもつ認定看護師を中心とし、フットケア、ストーマ管理、褥瘡^{しよくそう}予防、リンパ浮腫ケア、緩和ケア等を行っています。当院の認定看護師を紹介します。

がん放射線療法看護認定看護師

がん放射線療法看護認定看護師は、放射線療法を行う患者さんが治療を完遂できるよう、治療計画から副作用を予測し、治療の原理に基づいたケアに繋げていくことを専門とした看護師です。放射線療法は治療期間が長くかかることの多い治療であり、副作用の予防的ケアはとても重要となります。

「放射線療法」という名前は耳にすることは多いですが、実際にどのような治療が行われているのか、治療効果と副作用出現のメカニズムについてなど、理解し辛い部分も多い治療です。また、先の大戦における原爆の恐怖、さらには東日本大震災での原発事故の影響もあり、「放射線」という言葉に不安感や恐怖感を抱く患者さんも少なくありません。がん治療を受けられる患者さんやそのご家族へ、「放射線療法」がどういったものなのかわかりやすく説明し、安心して治療を受けられるよう支援していきたいと思えます。





宮川信名誉院長 逝去

当院名誉院長の宮川 信 先生が、8月21日にお亡くなりになりました。78歳でした。

宮川先生は、昭和38年に信州大学医学部を卒業、昭和45年に外科学第二講座へ入局、講師や助教授などを経て、昭和62年1月に飯田市立病院副院長に就任、同年6月に院長に就任、平成17年3月に退職、同年4月から名誉院長の職に就いておられました。

院長時代には、現病院の建設、地域医療支援病院等の各指定の取得、がん治療への積極的な取り組みにより、当院の機能向上・発展に多大な功績を残されました。

さらに、公職も多く務め、平成16年5月から6年間、全国自治体病院協議会副会長を務め、全国の自治体病院事業の発展に貢献されました。

平成23年4月には瑞宝小綬章（保健衛生功労）を受章されました。

ここに生前のご厚誼に深謝いたしますとともに、謹んで哀悼の意を表します。



シリーズ ● 職場紹介 ● その46

【ゆうゆう③2階Aチームの紹介】

ゆうゆう2階Aチームは26床(4人部屋5室・個室6室)を1丁目・2丁目に分け、11名のスタッフで利用者様の生活を支援しています。特徴は、急性期リハビリ、医療依存度が高い方、経管栄養の方が多く、ショート入所の方も常に6床程利用されています。

今年度は「利用者に安全な生活を提供出来る。家族に関心を持って頂けるような関わりが出来る。」というチーム目標を掲げ、利用者様の家族への関わりと、内服に関わる小集団活動に取り組んでいます。

レクの時間には、おやつ作り、カラオケ大会、PT・OTによるレクを毎月実施し、利用者様には笑顔で参加して頂いております。

常にチーム員一人一人が挨拶と笑顔を中心掛け、全力で利用者様を支援しています。



新任医師の紹介 7月〜10月



麻酔科
久米 文子
(くめ ふみこ)
昭和61年3月卒業
平成27年9月1日着任
前勤務病院
飯田市立病院(パート医師)



歯科口腔外科
西村 允宏
(にしむら まさひろ)
平成26年3月卒業
平成27年9月1日着任
前勤務病院
信州大学医学部附属病院



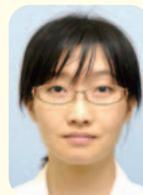
心臓血管外科
駒津 和宜
(こまつ かずのり)
平成14年3月卒業
平成27年10月1日着任
前勤務病院
信州大学医学部附属病院



外科
宮崎 暁
(みやざき さとる)
平成24年3月卒業
平成27年10月1日着任
前勤務病院
信州大学医学部附属病院



産婦人科
高野 宏太
(たかの こうた)
平成25年3月卒業
平成27年10月1日着任
前勤務病院
信州大学医学部附属病院



耳鼻いんこう科
市瀬 彩
(いちのせ あや)
平成18年3月卒業
平成27年10月1日着任
前勤務病院
信州大学医学部附属病院

あ と が き

読書の秋、スポーツの秋、芸術の秋といろいろな事を楽しめる良い季節の秋ですが、やはり実りの秋、食欲の秋ですよね。旬のものを、安心していただける事に感謝しながら、秋の味覚を味わいたいと思います。食べ過ぎには気をつけながら…。

編集委員 唐沢陽子